

この子らと

令和6年2月号

命輝く子ども



わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男



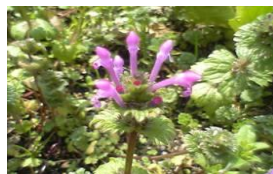
光の春→音の春→気温の春

春は、「光の春」「音の春」「気温の春」と順番にやってくるそうです。2月4日は、「立春」

「光の春」と言う言葉はロシア「旧ソビエト」で始まったと言われております。ロシアは、冬は暗く陰鬱で長く続きます。春とは言え気温は低いため、人々は太陽の明るさで春を感じるということです。



ふきのとう



ほとけのざ

「音の春」は、雪の多い地方では雪解けの音、鳥の鳴き声などいずれも春の到来を告げる音「音の春」と言えます。

そして、3月の春分の日(彼岸の中日)を過ぎる頃は「暑さ、寒さも彼岸まで」のとおり、気温も上がり甲突川等のソメイヨシノ(桜)も咲いて、春本番となります。光の春とか音の春とか感性豊かな表現だと思えます。

ソニーの創業者井深大の著書「あと半分の教育」では、知的学力を偏重して、心を置き去りにした日本人を憂えて、人間力を高めるためには、心や感性を重視した「あと半分の教育」を今こそ進める必要があると示唆しています。

本園でも幼児期にふさわしい教育として、感性や、思いやりの心、道徳的判断力、考える力等を育む「あと半分の教育」を進めております。

なお、本園では、「英語学習」や「もじかずくらぶ」等、知的学力の基礎を育む活動も進めています。

文字・数等の学び



《子育てに示唆を与える一例》

母と子どもの請求書

朝、掃除をしていると、息子の裕くん机の上に二つ折りした紙を見つけました。



開いてみると、息子の裕君の字で次のように書いてありました。『請求書・・・お使いに行き賃100円、庭の掃き賃200円、妹のおもり賃250円、合計550円』

お母さんへ 裕より

お母さんは、裕くん机の上に550円と一枚の紙を置きました。『請求書・・・風邪の看病代 ただ、食事の世話代 ただ、お洗濯代 ただ、合計 ただ』

裕くんへ お母さんより

これを読んだ裕くんは、胸がいっぱいになり、今にもこぼれ落ちそうな涙をおさえて決心しました。お金はいらない。大好きなお母さんのためにできることなら何でもしよう。

2月2日「豆まき会」(無病息災)

“子どもたちが怖がらない豆まき会にします”

鬼のイメージが子どもたちに恐怖感を与えているようです。



本園では、節分の意味をきちんと伝えながらも、子どもたちにとって楽しい遊びとしての豆まきにしようと工夫して実施いたします。

2月17日「保育参観」

各クラスごとに子どもたちの様子を参観していただきます。

運動会や発表会では、それぞれの子どもたちが成長した姿を見せてくれたと思います。日々のクラスでは、成長につながるためにどんな教育・保育をしているのか、我が子は、その活動でどんな姿を見せてくれるのかをじっくりと参観してください。

子ども園は、小学校につながる「学びの基礎」を培っています。